

株主メモ

事業年度	6月1日～翌年5月31日
定時株主総会	8月
基準日	5月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
公告の方法	電子公告の方法によります。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.pharmarise.com
証券コード	2796(ジャスダック)



ホームページも是非ご覧ください。



<http://www.pharmarise.com>

第25期 株主通信

2010.6.1 ▶ 2011.5.31



代表取締役社長
大野 利美知



地域医療にもっと広くもっと深く

株主の皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、本年3月に発生しました東日本大震災の被災者の皆様には心からお見舞い申し上げます。

Q 当期（2010年6月1日～2011年5月31日）の業績の概要を教えてください。

当社グループの当連結会計年度の業績は、売上高が268億25百万円（前期比14.6%増）、営業利益が14億96百万円（同52.3%増）、経常利益が13億43百万円（同73.7%増）、当期純利益が5億62百万円（同103.6%増）と、過去最高の成果を上げることができました。

増収の要因は、群馬県4店舗、北海道2店舗、愛知県と兵庫県に各1店舗の計8店舗の新店効果に加え、平成22年8月に当社グループが運営権を取得したJR札幌駅内「JRタワーオフィスプラザさっぽろ」内に展開する札幌医療モール事業の業績への貢献、さらには前期にM&Aを行った3社（株式会社三和調剤、北海道ファーマライズ株式会社、株式会社北町薬局）が業績に通年寄与したことなどがあげられます。また、平成22年4月の薬価改定と調剤報酬改定により、薬価の引き下げと調剤報酬体系の改定が行われましたが、当社グループでは普及に向けてインセンティブが設定されたジェネリック医薬品の供給体制の整備に注力したほか、調剤薬局の機能を開発する

という観点から、第一類医薬品の充実に加えて医療用サプリメントやメディカルアロマを取り揃えて、新たな付加価値の提供に努めました。

増益要因では、規模拡大のスケールメリットによる仕入・物流の効率化、地域医療とジェネリックの推進による技術料の確保に加え、持株会社を中心とした事業会社制への移行により、人件費等の経営効率改善が成果に直結しました。

当期末において当社グループが運営する店舗数は、連結ベースで164店舗（直営162店舗、FC2店舗）、持分法適用関連会社を含めたグループ全体では194店舗となっています。

Q 3月11日に東日本大震災が発生しました。ファーマライズグループに震災などの影響はありましたか。

当社グループでは、東北地方に30店舗（持分法適用関連会社含む）の調剤薬局を運営しています。震災による店舗や従業員等への被害はほとんどありませんでした。

そこで、震災被害が甚大であった宮城県石巻市や福島県福島市における薬局店舗では、地域の病院や行政と自発的に連携し、被災者への医療サービスの継続に努めました。

なかでもファーマライズ薬局石巻店では、電気や水道などライフラインが途絶える中、管理薬剤師をはじめとした店舗従業員は店舗に泊りがけで対応しました。当社では、被災地の患者に有

効な調剤サービスを提供するため、グループの総力を挙げて石巻店への応援体制を組みました。このような抜き差しならない状況は、ライフラインが復旧する4月末まで続きました。これらの一連の動きは、優秀な薬剤師や店舗スタッフがいて、全国にネットワークを持つファーマライズグループならではの取り組みとして、医療機関をはじめ患者からも高い評価をいただきました。

当社グループでは、今回の経験をグループ内で共有するとともに、「地域医療への貢献」の重要性をあらためて認識することとなりました。

Q 業務資本提携や第三者割当増資などグループ体制の強化に向けた取り組みもさらに進みましたね。

当社としては、規模拡大によるスケールメリットの構築がこの業界で勝ち残るための条件と考えています。

平成23年3月9日に発表した「業務資本提携及び第三者割当による新株式発行」には、「調剤薬局事業の強化」と「事業拡大のための資金調達」という2つの狙いがあります。今回の増資によって得られた4億70百万円は、主として新たな調剤薬局の開局に関わる設備投資に用いる計画です。

同時に行われた有力医薬品卸企業3社（株式会社ほくやく、株式会社バイタルネット、中北薬品株式会社）との業務提携は主に「地域医療の推進」において協力を深めるためのものであり、伊藤忠商事株式会社との提携は、「新業態の開発」や「後発医薬品（ジェネリック）への取り組み」において協力関係を深めることにあります。

また、平成23年5月27日に発表した株式会社メディカルフロントの株式取得（第三者割当増資引受）は、当社がもつ医薬品に関する情報サービスなど高い専門性と技術力を評価したものです。同社の技術力が当社グループで蓄積した医薬情報と結び付くことで、新たなシナジー効果が期待できます。なお、株式会社メディカルフロントは、医療・医薬品に関する独自のソ

フトウェアやデータベースの開発投資が一巡し、今後は販路拡大に取り組むことにより、売上・利益の拡大が見込める状況にあります。

札幌市で始めた医療モール事業は、最新の運営システムと医療機器を取り揃えた総合型医療モールとして順調に利益貢献しています。ここでのノウハウを移植して、新たな「地域医療への貢献」のスタイルとして医療モール事業をさらに発展させてまいります。

Q 震災を通じて地域医療のあり方も大きく変化する可能性があります。在宅医療や施設調剤に向けた社長の思いをお聞かせください。

当社グループは、「調剤を科学するプロフェッショナル集団」です。薬物のプロとしてわが国における地域医療の推進に貢献できる力を着実に備えつつあると考えています。

わが国の医療は高齢者人口の増加と、死因の半数近くを占





めるまでになった癌患者への対応等により、在宅医療や施設調剤への取り組みが緊急かつ重要な課題であると考えています。在宅医療の本質は、病院など同様の医療サービスを患者の自宅などにおいて可能にすることです。当社は10年ほど前から福島市などで地域の医師、看護師、行政などとの連携による在宅医療に深く関わり、高齢者や終末期の患者の薬の管理や指導に数多くの実績を積み上げてきました。もう一つの施設調剤は、高齢者が入居する老人保健施設や身体障害者などが入居する施設に赴き、薬全般に関する管理を行うことです。こうした施設では、医薬品の管理が惰性に流れがちで、医療過誤の引き金になるケースも少なくありません。薬剤師の社会的役割を果たすためにも、より積極的に関わっていきたく考えています。

Q 株主、投資家の皆様へメッセージをお願いします。

当社グループの主要業務である調剤薬局事業は、少子高齢化の進展により今後も安定的な成長が見込める数少ない市場とさ

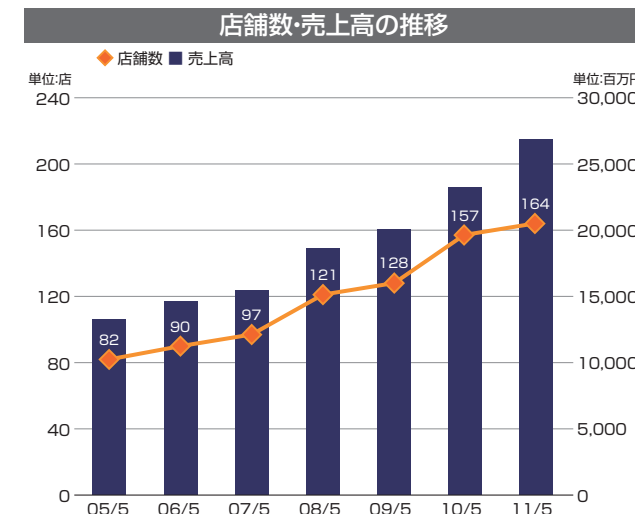
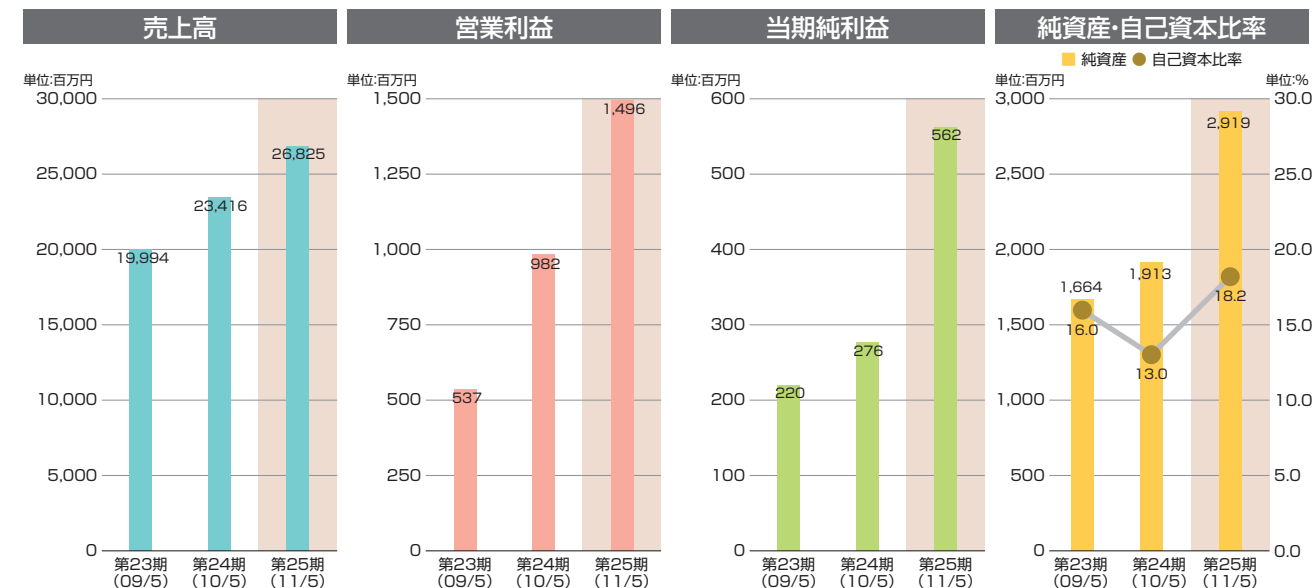


れています。それだけに異業種からの参入等による「競争の激化」も懸念されます。

こうした状況を踏まえ、持続的な成長を維持するために、地域医療という理念を共有できる地域薬局企業とのネットワーク作りを推進します。当社グループの持つ在宅医療や施設調剤などのノウハウをグループネットワークを通じて患者に提供することで、全国の地域医療に貢献できるものと考えています。

さらに、今後はこれまでも増して株主および投資家の皆様をはじめとした様々なステークホルダーの方々に対し、透明性の高い情報の開示に努めます。これまで、アナリスト向け決算説明会や個人向け会社説明会等のIR活動に力を注いできましたが、今後はホームページ等の媒体も活用して、情報発信の質・量・スピードともさらに高めてまいります。なお、当社グループは、株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、業績に見合った成果の配分を行うことを配当方針としています。この方針に則り、今期（平成24年5月期）の年間配当額は、当期（平成23年5月期）の2,600円から3,000円に増額する予定としております。

株主および投資家の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご理解を心からお願い申し上げます。



ファーマライズ医療モール (2010年8月取得)



ファーマライズ薬局 豊川店 (2011年4月開局)



1 ファーマライズの現場力

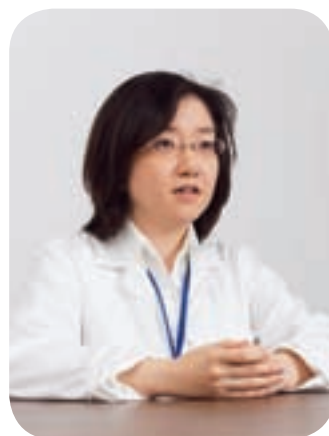
実習学生に慕われるお母さん店長

Q ミスが許されない仕事ですね。

調剤したお薬は3回チェックします。1回目は自己監査です。調剤した薬剤師自身が再度処方せんと見比べて確認します。2回目は処方監査です。別の薬剤師が処方せんとお薬を照合し、処方として間違ったところはないかチェックします。その際には、保険番号やお薬手帳なども確認し、お薬の飲み合わせもチェックしています。3回目は、患者さんにお渡しするときです。患者さんの前で処方せんをつき合わせて確認をします。お薬が変わった場合などは、患者さんに病状の変化等も聞くようにしています。

Q 薬剤師志望者への実習指導員だとうかがいました。

薬学部が4年制から6年制になり、実務実習が必須となりました。昨年4月から私どもの店舗でも2回にわたって各1名を11週間受け入れました。大変なのは、業務と平行して行われるため、学生の指導に十分な時間を割くのが難しいことです。調剤業務をおろそかにできませんので、学生の指導と業務のバランスをいかにとるかが大切です。実習では薬剤師の免許をもたない学生が患者さんにお薬の説明をする“服薬指導”という項目があります。患者さんの許可をもらってから行うのですが、そこが一番大変なところです。



トリム薬局 さいたま店 店長
管理薬剤師 澤田 なつみ

Q 仕事と家庭を両立する秘訣を教えてください。

わが家には小学2年生の双子(男の子と女の子)がいます。以前「子ども店長」が話題になりましたが、わが家の双子は「お母さん店長」がちょっぴり自慢のようです。入社3年目に双子の妊娠が分かり、産前14週間の休暇と子供たちが1歳になるまでの育児休暇をもらいました。子育ても、実習学生や新人の受け入れも、どうやらうまく育つかとところで共通しています。言葉でいっても分からないときは、自分がやって見せてから説明するなど、相手によって教え方を変えることも必要です。実習で関わった学生さんがファーマライズに入りたいといってくれるのは、何よりうれしいことです。

2 新マネジメント紹介

医療サービスの質を高め患者さんに希望を

Q 就任の抱負からお聞かせください。

これからの医療は高齢者や終末期患者などへの在宅対応が鍵を握ります。医師や看護師と連携して、地域医療チームの一員として在宅医療への関わりをさらに強めたいと考えています。単純に医薬品のお届けというところでは、ライバル企業もいくつか取り組んでいますが、私たちは高い専門性とチームワークに裏打ちされた医療連携を大切に、より質の高い医療サービスの一角を担うことを使命と考えています。一人でも多くの患者さんが安心して過ごせ、希望が持てるようにしたいのです。



ファーマライズ株式会社
代表取締役社長 菅野 洋

Q 事業としての在宅についてどう考えていますか。

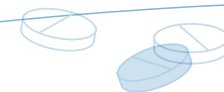
現状は、確かにボランティアのような部分があるかもしれませんが、在宅医療という制度が調剤サービスの実態に迫りつつあることで、近い将来、さらにビジネスチャンスが広がるものと考えています。日々コツコツと取り組むことで、患者さん、医師や看護師、さらには社会から信頼も得られて事業としての評価がついてくるものだと思います。

予防医療や介護の分野でもプライマリーケア(総合的に診る医療)へのニーズが高まっています。これらも含めて医療の進化に合わせた薬局の新たな機能開発に情熱を持って取り組みたいと考えています。

Q 若い薬剤師の皆さんにメッセージをお願いします。

私自身、ずっと現場で調剤の仕事をやってきました。薬剤師の在宅医療参入が始まったばかりの頃、薬剤師も寝たきりの患者さんの役に立ちたいのだと医療機関を回ってお話をし、提案書をつくることからスタートしました。

あるドクターから一人くらいやってみるかチャンスをもらい、患者さんは喜んでいと信頼されるようになりました。私の基本スタンスは、患者さんから学び、医師や看護師から学ぶということです。私自身これまでよい経験を沢山しました。若い薬剤師の皆さんも、経験の中で学び、ともに一歩一歩進んでいけたらと考えています。



連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	当連結会計年度 平成23年5月31日現在	前連結会計年度 平成22年5月31日現在
資産の部		
流動資産	7,684	6,632
固定資産	7,641	7,150
有形固定資産	3,744	3,558
無形固定資産	2,139	2,072
投資その他の資産	1,757	1,519
繰延資産	12	4
資産合計	15,338	13,786
負債の部		
流動負債	7,581	7,372
固定負債	4,837	4,500
負債合計	12,419	11,873
純資産の部		
株主資本	2,775	1,782
資本金	815	580
資本剰余金	762	527
利益剰余金	1,285	763
自己株式	△ 88	△ 88
その他の包括利益累計額	15	12
少数株主持分	128	118
純資産合計	2,919	1,913
負債及び純資産合計	15,338	13,786

●連結貸借対照表のポイント

- ・流動資産の増加要因は、第三者割当増資による現預金の増加と、規模拡大に伴う売掛債権の増加です。
- ・固定資産の増加要因は、札幌の医療モール取得と㈱アポテックの持分法適用会社化に関連するものです。
- ・第三者割当増資と利益留保により、純資産は約10億円増加しています。

●連結損益計算書のポイント

- ・主な増収増益の要因は、前期に連結子会社化した3社（㈱三和調剤、北海道ファーマライズ㈱、㈱北町薬局）が通期貢献したこと、札幌の医療モールが計上されたこと、調剤薬局の既存店売上が好調だったことです。
- ・特別損失の主な内訳は、減損損失と貸倒引当金繰入額です。

●連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- ・営業活動によるキャッシュ・フローは、利益と同様に過去最高を更新しています。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、㈱アポテックの株式取得や札幌医療のモールに関連した投資です。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローには、第三者割当増資による資金調達が含まれています。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当連結会計年度 自 平成22年6月 1日 至 平成23年5月31日	前連結会計年度 自 平成21年6月 1日 至 平成22年5月31日
売上高	26,825	23,416
売上原価	22,721	20,223
売上総利益	4,103	3,193
販売費及び一般管理費	2,606	2,210
営業利益	1,496	982
営業外収益	62	29
営業外費用	215	239
経常利益	1,343	773
特別利益	7	0
特別損失	178	193
税金等調整前当期純利益	1,172	580
法人税、住民税及び事業税	593	456
法人税等調整額	5	△ 159
少数株主利益	10	7
当期純利益	562	276

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当連結会計年度 自 平成22年6月 1日 至 平成23年5月31日	前連結会計年度 自 平成21年6月 1日 至 平成22年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	942	807
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 773	△ 1,612
財務活動によるキャッシュ・フロー	527	1,475
現金及び現金同等物の増加額	696	670
現金及び現金同等物の期首残高	2,592	1,921
現金及び現金同等物の期末残高	3,289	2,592

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（自 平成22年6月1日 至 平成23年5月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額 その他有価証券 評価差額金	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成22年5月31日残高	580	527	763	△ 88	1,782	12	118	1,913
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	235	235			470			470
剰余金の配当			△ 40		△ 40			△ 40
当期純利益			562		562			562
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額						2	10	12
連結会計年度中の変動額合計	235	235	522	-	993	2	10	1,005
平成23年5月31日残高	815	762	1,285	△ 88	2,775	15	128	2,919

単体貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	平成23年5月31日現在	平成22年5月31日現在
資産の部		
流動資産	3,500	1,811
固定資産	3,447	3,271
有形固定資産	242	246
無形固定資産	55	75
投資その他の資産	3,149	2,949
繰延資産	11	2
資産合計	6,959	5,085
負債の部		
流動負債	1,522	1,232
固定負債	3,590	2,627
負債合計	5,112	3,859
純資産の部		
株主資本	1,834	1,212
資本金	815	580
資本剰余金	762	527
利益剰余金	344	193
自己株式	△ 88	△ 88
評価・換算差額等	13	13
純資産合計	1,847	1,225
負債及び純資産合計	6,959	5,085

単体損益計算書 (要約)

(単位：百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	自 平成22年6月 1日 至 平成23年5月31日	自 平成21年6月 1日 至 平成22年5月31日
売上高	412	328
売上原価	17	43
売上総利益	395	285
販売費及び一般管理費	250	223
営業利益	145	61
営業外収益	180	93
営業外費用	96	96
経常利益	229	58
特別利益	1	-
特別損失	-	76
税引前当期純利益	230	△ 17
法人税、住民税及び事業税	△ 2	3
法人税等調整額	42	△ 21
当期純利益	190	1

■ 会社概要 (2011年5月31日現在)

設 立	1984年6月
社 名	ファーマライズホールディングス株式会社
資 本 金	815,545千円
本 店 所 在 地	東京都中野区中央1丁目38番1号
事 業 内 容	持株会社（調剤薬局事業を営むグループ 会社を統括する管理運営会社）
ホ ー ム ペ ー ジ	http://www.pharmarise.com
主 要 取 引 銀 行	株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社みずほ銀行
連 結 従 業 員 数	799名（2011年5月末現在、非常勤含む）

■ 役員 (2011年8月23日現在)

代表取締役社長	大 野 利美知
専 務 取 締 役	村 上 典 夫
専 務 取 締 役	秋 山 昌 之
常 務 取 締 役	大 野 小夜子
取 締 役	小 高 芳 夫
取 締 役	三 浦 誠
取 締 役	藤 平 栄 一
取 締 役	菅 野 洋
取 締 役	青 山 智 幸
監 査 役	地 搗 幹 夫
監 査 役	加 部 英 視
監 査 役	佐 藤 勝

■ 株式の状況 (2011年5月31日現在)

発行可能株式総数	85,860株
発行済株式総数	26,165株
株 主 数	622名

■ 大株主の状況 (2011年5月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大野 利美知	10,533	40.3
ファーマライズ従業員持株会	1,151	4.4
中北薬品株式会社	1,100	4.2
株式会社バイタルネット	1,100	4.2
株式会社ほくやく	1,100	4.2
伊藤忠商事株式会社	1,000	3.8
大野 小夜子	844	3.2
株式会社アイセイ薬局	749	2.9
平松 仁	510	1.9
鈴木 孝雄	299	1.1

■ 主要仕入先

株式会社ほくやく	株式会社バイタルネット
中北薬品株式会社	他

■ 連結子会社 (2011年5月31日現在)

名称	住所	事業内容
ファーマライズ株式会社	東京都中野区	
株式会社みなみ薬局	静岡県御殿場市	
株式会社南魚沼郡調剤センター	新潟県南魚沼市	
株式会社双葉	京都市東山区	調剤
株式会社ふじい薬局	北海道苫小牧市	薬局事業
株式会社三和調剤	東京都武蔵野市	
北海道ファーマライズ株式会社	北海道札幌市	
株式会社北町薬局	東京都練馬区	